

【 From Kobe 2016 年 7 月 】

梅雨明けが待ち遠しい 7 月初旬

神戸 そば降る雨の 街明かり Happy Rainy Days!!

6 月 23 日 沖縄慰霊の日
「命は宝」
平和な日々の実現に

《ぶつぶつ from Kobe 》

- 1) 征夷大将軍「坂上田村麻呂」& 蝦夷のリーダー「アテルイ」の評価討論から出てくるもの
NHK BS 英雄たちの選択 「衝突！その時 男は何を見た 征夷大将軍・坂上田村麻呂」 2016.5.26. より
- 2) 「合成の誤謬」と今の世相 インターネットで見つけた「合成の誤謬」の評論を見つけて



2016.6.1. 田圃に水が入り、一機に田園風景が初夏モードに 2016.6.1. 東播磨加東市で



刻々と色を変えてゆく庭の紫陽花 雨上がりの朝は一層鮮やかに

ゴールデンウィークが過ぎて 田圃に水が入ると 野山も里も一機に景色が初夏モードへ

ふっと気が付くと この時期 街で過ごすことが目白押し。

例年の仲間の会に 「今この年やから 同窓会やろう」との誘いに
うれしくて出かけてゆく。

この梅雨は「年寄りのゴールデンウィークだ」とハッと気が付く
Happy Rainy Days !!

日頃 近くにいながら なかなか出会えぬ仲間たち また 50 年ぶりの仲間にも出会い、久しくご無沙汰している山口美弥の田中さんご
夫妻そして「ペナン島で私のかつての仕事仲間に随分世話になった」と古い大学仲間 仲間も神戸を訪ねてくれた。

また 季節の便りを添えて【サクランボ】が届いた。



夏の朝顔ほか苗の準備を家内がせっせと進めている

孫たちも梅雨をものともせず、元気に頑張っている。「教えてくれた ジョージ カーリンの言葉 みんなにも配ったよ」とカントリーライブに誘ってくれた仲間が言う。「そや 100になったら赤ちゃんや 一度 私もみなければ」と年寄りの二人暮らし「うれしいねえ」と多くの仲間と健康に感謝としつつ、Happy Rainy Days!!
次は高校野球の予選 母校の応援に。これが始まると梅雨明けと暑い夏の到来。
無理せず 元気に今を過ごしたい。

2016.6.20. 神戸にて Mutsu Nakanishi



2016.5.21. 西六甲縦走路 梅尾山から眺める明石海峡 遠望



《 いつまでも若くいるコツ 》 by ジョージ カーリン

1. 年齢、体重、身長など、どうでもいい数字は気にしないこと こんな事は医者任せましょう。
そのために医療費を払っているのですから。
2. 元気な友達とだけ付き合うこと
愚痴しか言わない人といると、こちらの気持ちも暗くなります。
3. 生涯学習あるのみ コンピュータ、工芸、ガーデニング、ハム無線、なんでもよいので学ぶ姿勢を持ちましょう。
脳を怠けさせない事。怠けた心には、衰えという悪が宿ります。
4. 単純な事を楽しみましょう
5. 沢山、長く、大きな声で、お腹が痛くなるくらい笑いましょう
6. 悲しみ、耐えて、そしてまた進む 涙も出るでしょう。しかし生涯付き合ってくれるのは、自分自身です。
命ある限り、自分の人生を歩みましょう。
7. 好きなものに囲まれて暮らしましょう
家族、ペット、思い出の品、音楽、植物、趣味、何でもいいですから好きなものに囲まれて暮らしましょう。
家は自分の居心地の良い場所なのでから。
8. 体を大切に！ 今健康ならそれを維持し、悪いなら、改善に努めそれが無理なら、助けを求めましょう。
9. 後悔しないこと ショッピング、隣町、外国、とにかく後悔する気持ちを忘れさせてくれる場所に出かけましょう。
10. どんな時でも、大切な人に「愛している」と伝えましょう

そして忘れてはいけない事: 人生とは、自分が息を吸う数ではなく息を吐く瞬間で測定するものです。
充実した毎日を生きましょう!!

でも ひとりより仲間。年々出会うのが難しくなってきましたが、仲間の笑顔はみんなの応援歌と。
みんなまだまだ元気。好奇心もある 仲間が頼りですが、時には 助けてもらいながら 無理せず 前向いて
『From Kobe 梅雨明けが待ち遠しい 7月初旬 』 Happy Rainy Days!!

2016.6.20. 神戸にて Mutsu Nakanishi

《ぶつぶつ from Kobe 》

1) 征夷大將軍「坂上田村麻呂」& 蝦夷のリーダー「アテルイ」の評価討論から見えてくるもの

NHK BS 英雄たちの選択 「衝突！その時 男は何を見た 征夷大將軍・坂上田村麻呂」 2016.5.26. より

2) 「合成の誤謬」と今の世相 インターネットで見つけた「合成の誤謬」の評論を見つけて

【1】征夷大將軍「坂上田村麻呂」& 蝦夷のリーダー「アテルイ」の評価討論から見えてくるもの

NHK BS 英雄たちの選択 「衝突！その時 男は何を見た 征夷大將軍・坂上田村麻呂」 2016.5.26. より

出演：磯田道史、赤坂憲雄、里中満智子、宮崎哲弥、鈴木拓也



坂上田村麻呂



古代の城柵「志波城」を復元した歴史公園



©盛岡市教育委員会

時は平安遷都を行った桓武天皇の時代。遷都と並ぶ国家プロジェクトが東北の蝦夷の制圧だった。大きな期待を背負い戦った坂上田村麻呂は、蝦夷のリーダー・アテルイを降伏させることに成功する。しかし田村麻呂はアテルイから助命を要請される。

朝廷の大反発が予想される中 命を救う行動にできるか、それとも 敵将処刑やむなしと突き放すのか？

国家の方針で蝦夷と衝突し、そして蝦夷の実像を知っていった田村麻呂の苦悩に迫る。

インターネット NHK オンデマンド PR コピーより

アテルイは東北では英雄であるが、他では「鬼」・「悪路王」・「逆賊のリーダー」であり、坂上田村麻呂は逆賊を制圧した英雄である。

敵のリーダーアテルイとモシの度量と人柄を評価していた田村麻呂は まだ帰順せぬ蝦夷たちへの説得工作も視野にあったと推察されるが、助命を嘆願するも、彼らの謀反を恐れる貴族たちの反対もあり、2人は処刑された。この場面で、坂上田村麻呂の選択を支持するのか、それとも反対するのか？

4人のコメンテーターがどちらの選択をするのか？ コメンテーターの意見・討論で番組が進む。

「多分 東京や都市圏で仕事をする2人は処刑を選択し、地方で仕事する2人は助命を選択するだろう」と

家内と話をしながら見ていたのですが、ドンピシャ。興味深々で4人の評価討論を見ていました。

帰属意識を捨てて、一般常識的に考えると

「平和な暮らしが続いている蝦夷の人たちにとっては、突如 仰天の未知なる新しい社会秩序への選択を迫られたわけである。怒るのもあたりまえであろう」。

でも 大和の中央集権政権側からの勝手な都合からいうと喉から手が出るほど新秩序に組み込みたい。

「小を殺して大をとる」と。

この構図は沖縄問題・東京と地方・アフガニスタン&中東紛争 そして 最近の政権の政策運営・自民党議員の言動・もっと直近では東京都知事問題等々にあまりにも極似していることに驚く。特に最近の安倍政権の「課題を2/1化して、敵か味方かを迫るかやり方」は目に余る。

「右か左」「2/1の選択」は どちらかしか解がないように誘導した幻想土俵を作り上げ、ややもすると帰属意識のぶつかり合いで、決着をつけようとする。それは必ずしも「真ならず」と思うのですが……………。

もっとおだやかな時間をかけた解決策があるはずだと……………。

いいかえれば、性急なスピードオンリーの今の価値判断がどれほど間違いだらけであったかは今の社会情勢を見れば、明らか。相手の暮らしを考えず、自分の暮らす社会の常識だけを判断根拠とするいわば 島国根性的発想になりやすい「2/1の判断」は本当に正しいのだろうか……………。 そんなことが 垣間見える番組でした。

最後に東北学を提唱推進されてきた赤坂憲雄氏らは

「いずれにせよ 坂上田村麻呂・アテルイは 二人して 次の時代を切り開いた英雄に違いない。

中央政権はこれ以後 秋田城・志波城を築き、さらに北進してゆくが、武力での制圧を捨て、同化政策を採っていく。

この政策転換にも 大きな影響を与えたに違いない。現代社会も彼らに学ぶことが多い」

と結ばれた言葉が強く心に響いてくる。解はなく人それぞれ。でも 私には考えさせられた有意義な討論でした。



須磨アルプから眺める北の横尾団地から 妙法寺・鶴越方面 2016.5.21.

2016.6.1. from Kobe Mutsu Nakanishi

2. 「合成の誤謬」と今の世相 インターネットで見つけた「合成の誤謬」の評論を見つけて

「合成の誤謬」という言葉をインターネットのビジネス評論の中で見つけた。 ぼんやりとは知っていましたが、評論を眺めていて、 この言葉は「日本人の気質・知恵」を言い表すのに大事な言葉だと。

部分の最適化が全体最適と相容れないケースの話を指す言葉である。

例えば、映画館で火事が起きたとしよう。個人の生存を考えればできるだけ早く逃げ出すことが正しい。

最初に脱出するのと、最後に脱出するのではリスクが違う。

だから個人の最良の選択肢は「誰よりも先に逃げ出す」ことになる。

しかし、全員が同じことを考えれば、狭い出口に人が殺到し、将棋倒しになって誰一人助からないということも

起きかねない。こうした場合に全体最適化をするためには退出順序を決め、全体の効率を上げて

「最後の人を最も早く脱出させる」方法を考えることが一番だ。

以前 紹介した高速道路の合流の話 また電車バスの整列乗車等々

「譲り合い」「やさしさ」などとも紹介されてきた日本人は比較的得意な分野で、日本人が長年にわたる経験から体得してきた技でもある。

この話をよくよく考えてみると 今の時代 外国人たちが表向きは「日本の美徳・おもてなし」どの言葉で

評価している事柄の中に この「日本人の知恵」と呼ばれる分野の行動がたくさんあると はたと気が付く。

また、逆に グローバリゼーション・アメリカ至上主義の名のもとに「デジタル・スピード・効率」を錦の御旗のごとく

はやし立て、自らの経験の中で体得してきたこの「合成の誤謬」を避ける知恵を今 日本人は去ろうとしているのではないか?。

厳しい競争社会の中で生きることによって晒されてきた諸外国の人たちには 体得しえなかった知恵であろう。

明日は我が身 気が付いた時には すでに時は遅しである。

これらの行動は日本人の中で 表向きどう語られているのだろうか?

本音と建前。 正当な評価を与えず、「日本人の美徳」 また 正反対に「茶化した行動」としてしか 語られない向きも多いが、今の時代だからこそ この「合成の誤謬」の視点で これを避ける知恵をもう一度見直すことが本当は極めて重要。

日本人に根差したやさしさ 白黒をつけるでなし 周りを眺め、ゆっくりと流れてゆく道を探す

縄文の時代から日本人が心の奥底ですっと育ててきた気質・知恵に 諸外国の人たちがあこがれを持って見つめていることを日本人はもっと知るべきではないでしょうか・・・・・・。

2016.6.1. from kobe Mutsu Nakanishi

参 考

インターネットのビジネス評論の中に「中古車で十分」の先に起こる日本の不幸化と題して この「合成の誤謬」について「週刊モータージャーナル」に書かれた池田直渡氏の評論がある。

ぼんやりとした 知らなかった「合成の誤謬」の言葉を見直し、考えてみるきっかけになった評論。

私とは立場も意見も異なり、 結論が書かれているわけでもないが、今の時代の世相や疑問を直視し、

「合成の誤謬」の視点から日本の経済環境をやさしく書き表した評論と思え、随分参考になりましたのでご紹介。

ITmediaビジネス

O N L I N E

2016 年 05 月 30 日 08 時 00 分 更新

池田直渡「週刊モータージャーナル」：

「中古車で十分」の先に起こる日本の不幸化

「新車なんて買えない。中古車で十分だ」。これが今の日本の消費者のリアルな声だ。

そこには日本経済の停滞が大いに関係するのは言うまでもない。

この連載の重要なテーマは日本の自動車産業のゆくえである。クルマが売れる、売れないの話は、日本経済がもっと強くなるためにはどうしたらいいのかという視点で書いているつもりだ。

当然それは企業だけが儲かればいいという話ではなく、国民全体が豊かで幸せになることへとつながっている。

もちろん読者の個人個人に同じ視点の持ち方を強要するつもりはないから、そこは自由に読んでいただいて構わない。

ただ新車の売れ行きをみると非常に多く目にするコメントがあり、ちょっと気になっているのだ。

1. 低所得時代のクルマ選び 「新車なんて買えない。中古車で十分だ」

それは、日々生きていく中で、高いリアリティを持つ言葉だと思う。正直な話、筆者も個人的に同感なのだ。中古車で十分。というより、それがベターな選択肢だと思う。何よりもない袖は振れない。選択肢がないのだから仕方がない。

会社員として生きていくとしたら、毎年のベースアップが当たり前という時代はもう失われて久しいし、むしろ会社の業績いかんによっては給料が下がる心配をしなければならぬ。転職しようにも、給料が上がるのはどんどん限られた層のものになっている。今や給料が増えるどころか、何かあって会社を辞めざるを得ないとき、経験を生かした転職ができるだけでも恵まれた人だと言える。未来に対する安心材料はいっこうに増えていく気配がない。

「閉塞した状況を打破するためには起業しかない。アニマルスピリットを持ってチャンスをつかめ」という声は常にある。

日本という国の活力や競争力を考えたとき、この国には起業家がまったく足りてないというのも事実である。

だから起業して成功した人はヒーローのようにもてはやされていたりする。

しかし、実態としてその成功率がどんなものかと言えば、起業 1 年後の生存率が 40%。5 年後は 15%。10 年後は 6%。20 年後になるとわずか 0.3%に過ぎないと言われている。

実はこの数字、国税庁の 2005 年調査だということであちこちで引用されているが、元ソースがどうやっても見つからない。筆者も散々探したが、同じように困っている人が見つかるのみだ。

しかしながら、税理士などの現場を見ている人たちの実感として概ね正しそうだという声もあるので、一応信用することになると、起業した 1 年後には半分は敗者になっているし、10 年後の生存率は 1 割を割り込む。

この数字を見て起業に挑もうとするのは酔狂だ。

つまり、収入増をアテにした作戦はどうやっても立てられない。となれば、現実的な対応策は出費を減らす以外にない。

企業経営でもそれは同じだ。売り上げアップや高付加価値化は常にミズモノで、成果が出るかどうかはやってみるまで分からない。やれば必ず成果が上がるのはコストダウン、つまり出費の抑制だ。

企業も人も、お金を使わないことこそが最も確実な「負けない方法」なのである。

だから出費を抑えるという意味で「中古を買うのは正しい」のだ。

ギャンブル的要素もあるので、一概には言えないケースもあるが、それはまた別のテーマとして書くことにする。

2. キーワードは合成の誤謬

さて、節約は堅実な戦法であるとして、皆でやるとどうなるだろうか？

経済の世界には「合成の誤謬（ごうせいのごびゅう）」という言葉がある。

部分の最適化が全体最適と相容れないケースの話だ。

例えば、映画館で火事が起きたとしよう。個人の生存を考えればできるだけ早く逃げ出すことが正しい。最初に脱出すると、最後に脱出するのではリスクが違ふ。だから個人の最良の選択肢は「誰よりも先に逃げ出す」ことになる。しかし、全員が同じことを考えれば、狭い出口に人が殺到し、将棋倒しになって誰一人助からないということも起きかねない。こうした場合に全体最適化をするためには退出順序を決め、全体の効率を上げて「最後の人を最も早く脱出させる」方法を考えることだ。

日本人はこういうことが比較的得意である。

例えば、電車の乗り降りの際、降りる人を優先して左右に分かれて出口を広く開け、降りる人の退出を最速化することが、結局は乗り込む人が最も早く乗れる方法だということをほとんど誰もが知っていて、駅員が整理を行わなくても自然にフォーメーションが実行されている。世界的にも恐らくは希なことだと思う。

仮に単語としては知らなくても、日本人は合成の誤謬を実践レベルで知っているのだ。

こうした合成の誤謬の観点から冒頭に記した中古車購入の話を見たらどうなるか？

それはもう言うまでもないだろう。新車が売れなくなってメーカーの業績が下がる。業績が下がるからサプライヤーを含めた自動車産業従事者の給料が下がる。労働人口の10%を占めると言われる自動車産業従事者の所得低下は消費を押し下げてほかの産業の業績も下げることになる。

こうして国民大部分の給料が下落すれば、より中古車指向が強まっていき、そのスパイラルは再度日本を深いデフレの淵へ飲み込んでいく可能性があるのだ。個人の判断としては正しい「消費の抑制」が、合成の誤謬によってさらなる個人経済の悪化に循環的につながってしまうのである。

ここで「だから個人がお金を使わなくてはいけない。新車を買え」という結論を出すのは短絡的に過ぎる。

全員がそうすれば確実に状況は変わるが、気の早い人だけが頑張って新車を買ったとしても、多数派が追随しない限り結果は変わらない。結果として全体最適化につながらなければ、個人的判断の間違いになるだけのことだ。

3. 出口はあるのか？

こういう状況だから出口は簡単ではない。ほかの指標を見ても分かるのだ。

これだけ税収が足りないと言いつつ、なぜ国の借金が増え続けていくのか納得いかない人は多いだろう。

それはこういうことだ。

個人が消費を抑制し、企業がコストダウンをして内部留保を貯める。それは金融機関にどんどん貯め込まれる。

貯め込まれたお金には当然金利が発生するので、銀行は何か運用しないわけにはいかない。

個人も企業もお金を使う気はないので、国に使ってもらうしかない。

もし誰も使う人がいなければ預金金利を払えず銀行が潰れるのだ。

それは銀行という企業の問題ではなく金融システムの崩壊だ。

となれば国が国債を発行するしかない。そして国債を発行して財源を用意してしまった以上何かに予算を付ける。

そうやって「国民の借金」が増えていく。

生活者としての実感と正反対の話だが、今世界中で起きている現象は「金余り」だ。

だから日本は国債残高がどんどん増えていくし、余ったお金の運用先を求めているから、常に世界のどこかでバブルが発生することになる。という遠回りをして、ようやくクルマの話に戻る。

「新車が売れないと言ったって、それは中古車が使え物になる間だけでしょ？」という人もいる。それはその通り。機械である以上寿命があるので、中古車はやがて淘汰される。その間新車が売れなければ、未来の中古車の供給は減り、中古の競争率が高くなる。新車と違って相場商品である中古車の受給が引き締まれば、中古車がどんどん値上がりすることになり、

価格差がなくなって新車の売れ行きが戻るのだ。だから一時的なものに過ぎないという見方は正しい。
しかし、企業経営というのはそういう波に弱い。「要らない」と言われて新車生産を調整してきたところで、突然新車が売れるようになって生産量には限界がある。ましてや「要らない」と言われている間に生産設備自体を処分してしまう場合だってある。そうなればもう簡単には元に戻れない。
財の生産装置としての自動車メーカーを健全に維持していくためにはコンスタントな需要があることが理想なのだ。
働いている人だって「来年給料を倍払うから今年は無給で働いてくれ」と言われたら干上がってしまう。
企業も同じだ。

4. 問題に直面するロードスター

「中古車で十分」という言葉の向こうにはこういう問題が横たわっているのだ。
マツダ・ロードスターなどはこの問題に直面していると言っても良い。
初代NA型以来、最新のND型まで、クルマとしての本質的価値は変わらない。
変わらないということは素晴らしいことだが、ユーザー側にしてみれば どうしても新型を新車で買わなければならない理由は乏しい。ロードスターの最大の敵は旧型ロードスターなのだ。
価格も程度も幅広く、選り取り見取りだ。しかし、あまりにも多くの人がそういう合理的な判断をすると、25年続いたロードスターの歴史が途絶えてしまう。中古のロードスターを合理的に選択しておいて、いざ「NE型は出ませんでした」となったとき、「あんな名車の生産を止めてしまうなんておかしい」と叫んでも後の祭りである。

さてこの話、処方せんは何もない。こうすればそうならないという方法があるわけではないのだ。
個人としての合理的選択を否定したら自由経済が立ちいかない。
だからただ1つ、**合理的選択をするときに合成の誤謬という視点を思い出してほしい。**
そういう考え方があるということを知った人たちが、消費の仕方が変わるかもしれない。
なぜなら電車の乗り降りだって同じだからだ。
誰か一人だけ脇に避けても、効率は改善せず、その人の乗り込む順番が遅くなるだけだったはずなのだ。
しかし、日本人は多くの人のマナー向上という方法で、全体最適を実現して見せているのである。
救いがあるとしたらそれは知恵だけなのだ。

2016.5.30. 池田直渡「週刊モータージャーナル」：「中古車で十分」の先に起こる日本の不幸化 より転記



須磨アルプから眺める北の横尾団地から 妙法寺・鶴越方面 2016.5.21.

